

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	開拓者精神（創造・挑戦・協同）を校訓とし、高い知性、豊かな情操、健康な心身とたくましく生きる力を持った人間を育成する。 （１）知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。 （２）基礎的、基本的な知識と技能を身につけ、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。 （３）個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがいのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。 （４）心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れるようにする。		
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導・（情報管理）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒対象の学習指導に関するアンケートの「習熟度別授業や少人数授業が学習理解につながっている」の項目や、「授業の教え方や説明が分かりやすい」では、昨年より高くなっていた。さらに、前期末に授業評価を行い、後期の授業計画を改善した上での授業実践や、ICTを活用した授業展開を積極的に行う教科も増えた。今後も、授業力のさらなる向上を図りたい。一方、保護者対象では「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」「学力が向上するように指導している」の評価が昨年度より低くなっており、保護者との情報共有や、情報提供を積極的に行っていく必要を感じる。 (情報管理) ・業務上、個人情報を取り扱うことが多いので、データ上のミスや情報の漏洩がないよう限定した担当者（複数）で取り扱い、細心の注意を払う必要がある。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学力の向上：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。 (情報管理) ◇校務の情報化を推進するとともに、データ取り扱い時の複数でのセキュリティチェックを行い、事故防止に努める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・新入生には初期指導、学校全体で習熟度クラスの編成や、ICT機器の活用などにより、個々の力に対応した授業の推進 (情報管理) ・県の成績管理システムの有効利用と複数でのデータチェック ・セキュリティチェックシートによる、情報セキュリティ意識の向上		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 授業改善、教科指導力の向上 ・習熟度別授業の実施 ・生徒による授業評価の実施と分析により指導計画の変更と見直し実践を行う。 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施する。 (2) 学習指導の充実 ・授業を大切にして、家庭学習の定着を図る学習指導体制の推進 ・朝読書・学習の実践 (情報管理) (3) 情報セキュリティ意識の向上により、セキュリティ事故が発生を防ぎ、発生した際には適切な対応をとることができるようにする。	(1) 授業改善、教科指導力の向上 ・生徒による授業評価の実施・分析により、授業改善に役立てることができたか。 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施できたか。 (2) 学習指導の充実 ・各分掌、教科、学年と連携し、学校全体で学力向上を図る体制づくりを行えたか。 (情報管理) (3) 成績管理システムの運営は複数で行い、ミスがないようにする。 生徒の個人情報についての入力、教科担任や担任の協力を得て、確実に行ってもらう。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
① 授業改善、教科指導力の向上 ・生徒による授業評価を 1 科目以上行い、実施結果を教科会で確認・分析し、授業改善と授業計画の変更役に役立てた。 ・授業公開と研究授業の推進	① 分掌、教科、学年と連携し、学校全体で授業改善を行えたか。また生徒による授業評価、授業研究・校内研修が授業改善に役立てられたか。	A (B) C D	

・学校生活に関するアンケートの実施・分析 ② 学習指導の充実 ・年度当初のオリエンテーション（初期指導）が休校に伴い、計画通りにはできなかったが、ＩＣＴ機器の活用を積極的に行い、指導をより充実させた。 ③ 朝読書（朝学習） ・毎朝のホームルームの時間に、朝読書とテスト前には朝学習を行った。 （情報管理） ④ セキュリティチェックを利用して全職員の情報セキュリティ意識を高め、複数でのデータチェックを行い業務に反映させる実践。	② シラバスにおいて「学ぶ力・身に付ける力」や「評価」を明記し、説明できたか。 ③ 毎朝、朝読書（朝学習）を行うことで、確かな読解力が身に付き、学力向上に繋がったか。 （情報管理） ④ 職員の情報セキュリティ意識を向上させ、複数でのデータチェックを行いミスが発生しない。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題 ○習熟度別授業により、授業内容を実態に合わせることで、学力の定着につながり始めた。 ○生徒による授業評価を行い、授業改善のために役立てることができた。 ○教員のＩＣＴ活用がとても増えた。 ▲１年生は高校生活に慣れるために、日常生活面での面談指導を多く取り入れ、全学年とも長期休業明けなども面談等を行い、生活面で配慮する必要がある。 ▲家庭学習の習慣づけを早期から行う必要がある。 （情報管理） ▲セキュリティ意識を常に高く持ち続けることが常時の課題。 ○複数で確認しながら、教科担任や担任を通じて、しっかりチェックしてもらう体制（マニュアル）を作り、ミス防止の意識を高めてきた。		総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 （１）基礎力の確実な定着のため、学び直しなど個々に応じた対応を充実させる。 （２）生徒による授業評価の実施・分析し、授業計画を見直して実践し、授業改善を図る。 （３）ＩＣＴの利用などで、生徒が自ら学ぶ授業になるような授業形態（能動的学習の構築）や授業内容を工夫・改善する。 （情報管理） ・情報管理にあたる業務は複数であたり、チェックを確実に実践する。 ・情報管理の専門的な業務においては、図書・情報部と協力し、研修などで人材を増やす。		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年２月８日～１９日

【意見・要望・評価等】

- ・確かな学力をつけるため、の朝学習がＢ評価なので、もう少し実りのある時間帯になると良いと思う。
- ・習熟度別授業の実施は個性の育成にもつながり、大変だが継続していただきたい。
- ・学び直しの指導があることはとてもありがたい。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	- 多くの生徒は、学習や部活動、生徒会行事等に熱心に取り組み、ルールを遵守し、校外での挨拶を含め、規律ある生活ができています。 - ルールやマナー指導、身だしなみ指導に関しては評価を得ているが、いじめや差別に対する指導、薬物乱用や情報モラルに関する指導、体罰防止に関しては一層の努力が期待されている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 集団生活における基本的生活習慣を身につけさせる。 (2) 自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。 (3) 規範意識を育み、ルールやマナーを守る生徒を育成する。 (4) 全職員の共通理解のもと生徒指導体制の組織を強化する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	職員、保護者、関係諸機関の連携を積極的に行い、生徒指導体制を強化する。また、学年会と連携して個々の生徒の生活指導にあたる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 身だしなみ指導や遅刻防止指導、届出の徹底などを通して、規律ある生活態度を定着させる。 (2) 交通安全指導を通して、安全で安心できる生活のための啓発活動を行う。 (3) 諸問題に対して危機意識を持たせ、問題行動や被害などの未然防止に努める。社会生活を営む上で、ルールやマナーの遵守を呼びかける。 (4) 全職員による共通理解及び共通行動のもとで生徒指導が行えるようにするため、地道な呼びかけをするなど、日常的な生徒指導を行う。	(1) 遅刻者の状況や身だしなみ指導の結果から、望ましい生活習慣の達成度を確認する。学年会と連携して、日常的に生徒指導ができているかを確認する。 (2) 登下校時の交通事故や校内での生徒の様子から、生活状況を観察する。 (3) 落とし物や紛失物の様子から、貴重品管理や記名などの達成度を確認する。生徒の様子から遵守状況を観察する。 (4) 情報交換会や学年会との連絡を密にし、ルールや申し合わせなどの周知徹底状況を確認する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) ①生徒個々の遅刻回数の記録と個別指導。 ②定期的に一斉身だしなみ指導を実施。 ③身だしなみ確認カードで日常的に指導。 (2) ①登下校指導、自転車点検、交通安全講話、薬物乱用防止講座などを実施する。 ②掲示用プリントや全校集会で不審者や迷惑行為、盗難などの情報を伝える。 (3) クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でルール・マナー遵守を啓発する。 (4) 職員会議や研修などで、ルールを周知する。	(1) 遅刻の減少や身だしなみの改善などがみられたか。 (2) 交通事故や迷惑行為が減少したか。適切な対応がされたか。 (3) 安心して学ぶ環境作りに取り組むことができたか。 (4) ルールやマナーの遵守について機会を捉えて指導できたか。 (5) 全職員の共通理解のもとでの生徒指導はできたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D
11 成果・課題 ○遅刻指導によって常習的な遅刻者及び全体数は減少した。(後半は増加傾向) ○ブレザー、ネクタイ、リボンの着用状況はよくなった。(11～4月は着用) ○自転車の運転マナー(右側通行や並列進行など)は改善されつつある。 ○迷惑行為(嫌がらせ、器物破損など)は、ほとんど見られなくなった。 ○送迎車の校内乗り入れ禁止により、危険度が大幅に減少した。 ○不審者等の情報がすぐに生徒に伝えることで注意を促すことができた。 ▲遅刻の数が学年によって差が大きい。(後半、3年生で増加傾向) ▲交通事故は自損事故を含めて1月までに22件。(昨年度1月時点37件) ▲保護者の送迎の車の正門、東門付近での乗降が雨天の際に特に目立つ。 ▲身だしなみ(特に女子のスカート違反)がまだまだ改善されていない。 ▲学年団・担任と生徒指導部の共通理解がまだまだ不足している。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	(1) 貴重品ボックスの適切な使用法について指導し、生徒の自己管理能力を向上させる。 (2) 身だしなみや制服の着こなしについて、日常のこまめな全職員による指導体制を構築する。 (3) 心を育てる教育のために月1回の講話(講師は企画委員等)の実施を提案する。 (4) 問題行動が起きたときの対応について、誰もが初期指導できる体制を作る。(生徒指導力の向上) (5) 全校体制で予鈴前に教室に入る指導を行うことを提案する。(チャイムの鳴り始めて遅刻など) (6) 全職員の共通理解をはかるため、職員会議や研修でルールなどを周知する機会をつくる。 (7) 保護者ともよく話をし、気になることがあれば、職員に相談や報告をして「チーム」で対応する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】

- ・いじめ、差別に対する指導を今後も重点にしてやっていただきたい。
- ・今のコロナ社会を考えると、生徒の心のケアに重点を置く必要性もあると思う。
- ・全職員の共通理解のもとでの指導がC評価は少し残念なので、早期に改善して欲しいと思う。

2 評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒の約 8 割が進路情報の提供や、進路指導のあり方について肯定的は評価をしており、今年度のコロナウイルス感染症拡大という特別な状況下でも、一定の進路指導が行えたのではないかと考える。 ・保護者の方からも、必要とする情報提供に関してや、生徒の進路希望に沿った適切な指導に関して、約 6 割から肯定的な評価を頂いており、一定の理解を得ていると考えられる。しかし、オンラインや紙面での情報提供に難しさがあったため、今後の課題としていきたい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の発達段階に応じた情報提供やキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した「生きる力」を身に付けるための指導を充実する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心とし、進路指導部内の各学年担当がイニシアチブをとり、各学年団と連携する。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 多様化する新入試制度に対応しうる学力の強化 (2) 生徒一人一人の進路の実現に向けたガイダンス・講演会	(1) 生徒のニーズに応える授業＋α の取り組みとして補習授業が実施され、受験に対応できる学力が育成されているか。 (2) 「総合的な探究の時間」やLHRを利用し、進路目標実現に向けて進路意識が高まり、進路決定に寄与するものとなっているか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
・全職員による小論文、面接の個別指導 ・保護者向け進路説明会の実施 ・1年：職業観・勤労観の育成 キャリアガイダンス、大学模擬講義、放課後補習 ・2年：進路目標の設定 We b オープンキャンパスへの参加、大学模擬講義、小論文指導、放課後補習、 ・3年：進路目標の実現 受験ガイダンス、We b 講演会、小論文指導、面接指導、共通テスト受験生向け特別補習、放課後補習	① 各種進路ガイダンスが、進路意識の高揚を図り、3年間を見通した段階的な支援となっているか。 ② 生徒が意欲的に進路関係の行事に取り組み、自己実現を目指して、入試等で努力できる支援となっているか。 ③ 受験・就職に対応できる学力・能力が身に付いているか。	A ② C D A ② C D A ② C D	
11 成果・課題	○共通テスト志願者数は75%である。多様な進路に対応し、最後まで学力を付ける努力させる指導を行っている。 ○We b による進路講演会・キャリアガイダンス・模擬講義が生徒の進路選択に役立った。 ○模試を受験するにあたり、各教科で過去問を扱い対策をとるなど、学力をつけさせる努力を共有しながら行うことが出来た。 ▲模試受験後、生徒の学力層に応じた働きかけをし、個別に対応した指導が必要である。 ▲近年、近隣の中堅私大が難化傾向にある。そのため、より一層学力をつけさせることが重要である。また、早期から、小論文や面接の対策を行っていく必要がある。		総 合 評 価 A ② C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・自立した学習者、学習面でのリーダーを育てるための指導の一環として、1・2年次の上位者指導を徹底する。 ・確かな学力の養成のため、1年次から補習を開講し、生徒一人一人が第一志望の進路を実現できるようにする。 ・進路実現のための教職員間の協力体制を強固なものとし、生徒や保護者が相談できる環境をさらに整える。 ・進学先で躓かぬよう、授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる。 ・外部の教育力を精選して活用し、インターンシップ等、キャリア教育を充実させる。 ・保護者向け進路説明会を開催し、三位一体となって進路実現を目指す。 ・複雑化する入試制度に対応できるよう、よりアンテナを高くして情報をキャッチし、提供していく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】

- ・上位者指導の徹底や補習の開講等メリハリのある改善策を出しているので良いと思う。
- ・特別な状況の中、努力された先生方の様子を感じた。
- ・生徒にとって「自己実現ができた」といえる高校の出口でありたい。

2 評価する領域・分野	◇特別活動 学校行事の企画運営、部活動の振興、ボランティア活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	約7割の生徒が部活動に所属し、文武両道を目指しながら学校生活を送っている。「部活動が活発である」というアンケート結果からも、部活動は生徒・保護者・地域からも期待され評価されている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 執行部が主体的に生徒会活動を企画し、広範囲な生徒参加を図り組織的な運営を目指す。 2 部活動の活性化のために必要な方策を探り、実績広報活動に努める。 3 新生祭・球技大会等の学校行事に全校生徒で取り組み、学校への帰属意識を高める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部と生徒会各委員会顧問（関係の分掌）、部顧問、学年会との協力体制。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒会主体の学校行事の充実 (2) 学校行事・部活の実績の広報活動の充実	(1) 学校見学会の際、中学生・保護者対象アンケート実施。その他行事アンケート実施。 (2) HPや校門前の掲示板の有効利用。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
・学校見学会で、生徒会主体による学校説明と、学校案内。アンケート実施。 ・HPで学校行事の紹介、部活動の実績などのPR。 ・すべての学校行事に、全校生徒・全職員で取り組み感動を共有する。 ・コロナ禍での行事の精選。	①生徒のプレゼンテーションは分かりやすく行えたか。 ②本校の行事や部活動に対して興味関心を持ってもらえたか。 ③様々な学校行事や、部活動の取り組みにより学校への帰属意識を高めることができたか。	A B (C) D A B (C) D A B (C) D	
11 成果・課題	○コロナの影響でインターハイが中止となり、3年生の活躍の場が失われた。その中でも吹奏楽部は、全国大会出場を果たした。 ○コロナの影響で学校祭が中止となった。リモート文化祭などの意見も出る中でアンケート調査を行い、時期的な問題や生徒の実態を鑑み、今年度は中止した。 ○球技大会は学年別で行い、全職員、生徒の協力のもと、方法を考え無事にやりきることができた。 ○ボランティア活動は、リスクを考慮し、今年度は実施できなかった。		総 合 評 価 A B (C) D
12 来年度に向けての改善方策案	・コロナ禍の中で、3密を回避しながら他校の事例も参考にしながら、学校行事ができるよう考えていきたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】 ・コロナにより今年度の活動自粛はやむを得ないと思うので、総合評価はBまで上げて良いと思う。 ・今年度はどうしてもないことが多かったが、その中でも工夫して行事が行われていることが素晴らしい。
--

2	評価する領域・分野	◇ 保健厚生（保健管理・安全管理）		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・地震や台風などの自然災害に対する対策マニュアルについては、生徒は9割、保護者は8.5割近くが理解している。 ・「清掃が行き届いていて、学校がきれいである」と考える生徒は、昨年は5割であったが7割近くに向上した。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 保健管理の充実と保健指導の推進 (2) 環境整備の徹底とマナー指導の徹底 (3) 安全な施設設備の維持管理と防災意識の向上		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	保健厚生部の中で保健・環境・防災・厚生の4つの分野に担当を分担した。近年、防災に関する事業が増加傾向にある。担当の割り振り方にも考慮して、各分野との連携を行ない行事には全員であたる。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 協力を得て速やかな健康診断の実施と事後指導を実施する。 (2) 感染症予防・感染拡大阻止に向けて全校体制で取り組み、周知徹底を図る。 (3) 委員会活動を通して、資源ゴミの分別を徹底し環境美化への意識やマナーの向上を図る。 (4) 生徒・職員による定期安全点検を実施 (5) 月1回の全員掃除を実施する。 (6) 防災計画に基づいて年3回命を守る訓練を実施し、防災リーダーを養成する。また危機管理の指導・防災意識の向上に努める。			(1) 検診結果を分析。受診率の向上を確認 (2) うがい・手洗いなど自主的な感染症予防策を実施し、継続的な指導により定着させる。 (3) 委員会活動による掃除のチェックとゴミ回収所の分別状況の把握を実施し徹底する (4) 複数の目で安全を確認し、常に事故を予測する力をつける。 (5) 生徒・職員の清掃の意識を高める。 (6) 命を守る訓練での状況を把握・分析し、消防署員など専門関係者の講評や助言を受け、防災意識の向上に努める。	
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
(1) 各種健康診断や環境衛生の検査を実施。 (2) 欠席状況調査で、生徒の健康状態や感染症等の流行状況を早期に把握し、予防策を講じた。また、危機管理意識を高める啓発活動や保健指導を継続的に実施。 (3) 厚生委員会による分別の徹底を呼びかけ、回収場所には立ち番を付けて指導・監視をした。また、日頃の掃除チェック等を行った。 (4) 年2回、委員会と職員による校内安全点検を実施した。 (5) 月1回の全員掃除。 (6) 緊急地震速報発令を想定した命を守る訓練を年2回実施。（コロナで1回実施できず）			(1) 事後指導等を徹底できたか (2) 感染症拡大防止に全校体制で取り組めたか。また生徒の危機管理意識を高めることはできたか。 (3) 委員会活動を通じて、生徒の環境美化の意識が高まったか。 (4) 施設設備の安全な維持管理に組織的に取り組み、未然に事故を防ぐ力と安全意識を高めたか。 (5) 清掃・整頓に対する意識が向上したか。 (6) 訓練・講話により、緊急時の対応力と意識が向上したか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	○コロナの感染拡大で時期は例年より遅れたが、各種の健康診断や衛生検査は、職員の協力でスムーズに実施できた。事後指導及び措置もHR担任の協力を得て、措置完了者も順調に増えてきている。 ○保健委員会・厚生委員会の生徒は、保健管理や環境衛生に対する意識の高い生徒が多く積極的に活動することができた。更に委員会活動が活発化するように、指導していきたい。 ○環境美化においては、職員室や準備室の清掃 また職員トイレは教職員にお願いし、複数の掃除場所の監督にならないよう配慮し配置した。また月に1回の全員掃除の日を設け清掃や整頓に対する意識が高まった。 ○コロナウイルスの感染拡大で感染防止の啓蒙や毎日の昇降口での健康チェック（検温を含む）や手指消毒を実施。感染防止に必要な消毒液や備品をいち早く取りそろえた。また、昼食時の指導や掃除終了時に消毒の徹底を継続し実施できた。現在のところ、陽性者が出ていない。			総合評価 A (B) C D

12 来年度に向けての改善方策案

健康管理や掃除、毎日のことなので常日頃から気を配り活動を継続する。また異常気象でいつ何時災害が身の周りに起きないとは限らず 常日頃から危機意識や防災意識をもつように継続して指導していく。今年度、危機管理マニュアルの見直し・改定をすることができた。昨年度来のコロナウイルスの感染拡大で、今年度同様ワクチンが全国民にいきわたるまで来年度以降も感染防止対策を継続的に実施する。全職員で指導にあたりたい。保健厚生部の行事には、今年度同様全員で取り組んでいきたい。また、生徒ができる部分については、一緒に活動していきたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】

- ・危機管理マニュアルの見直し、徹底は迅速な対応をされているので、とても良いと思う。
- ・心も環境もきちんと整理されていると、自然に笑顔が多くなると思う。
- ・A評価が多いのは実践の成果であり、とても良いと思う。

2	評価する領域・分野	図書・情報 ◇ 読書指導・情報機器整備・情報教育		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・読書に興味を持つ生徒が比較的多い。 ・ほとんどすべての生徒がスマートフォンを持ち、SNS、LINE、メールなどで利用する時間が平均に比べて比較的多い。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 (1) 読書指導を推進し、図書館内の環境整備に努める。 (2) 図書館の木質化に伴い、利用しやすい図書館デザインを考える。 (3) 図書館や視聴覚教室での、LHR、総合的な学習の時間、各教科の授業を支援する。 2 (1) 情報機器の整備及び校内ネットワーク利便化と、充実を図る。 (2) 情報リテラシー教育を計画的に行い、情報モラル意識を養う。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館の効果的な利用について、図書委員会の自主的運営とバックアップを行う。 ・図書館の木質化の計画に備えて、関係各所と連携を取りながら、効果的な図書館デザインを考える。 ・情報リテラシー教育について、LHRや集会などの場や、情報の授業などで効果的に行う。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館を利用しやすいように整備・充実し、図書委員による貸し出しはもちろんのこと、広報などを行い、利用を促進する。 (2) 木質化に伴う、利用しやすい図書館デザインを学習面・予算面から具体的に立案する。 (3) 情報リテラシーの教育、またインターネット上や・配信授業におけるルール遵守を呼びかける。		(1) 貸し出し統計や読書アンケート、希望図書アンケートなどの結果を鑑みて、貸し出しの増加と利用度を確認する。 (2) 木質化に伴う、本校の実情に応じた図書館デザインの設計を完成する。 (3) アンケートやLHRで情報リテラシーやインターネットの利用状況を確認する。		
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
(1) ①図書選定委員会を通じた図書の充実。 ②図書委員会を中心にした広報活動。 ③職員・生徒アンケートを利用した希望図書の調査。 (2) 事務と連携を取り、設計事務所と工事及び書架等の選定を行い、設計を進めた。 (3) ①情報リテラシーについて、LHRや学年集会でインターネット上のルール・マナー・著作権遵守を啓発する。 ②情報モラルアンケートの実施。		(1) 昨年度より図書館利用の増加や貸し出し冊数の増加は見られたか。 (2) 本校の実情に応じた、新しい図書館デザインができたか。 (3) 生徒・教員に対して、情報モラルの遵守が啓発できたか。	A B (C) D A (B) C D A (B) C D	
11 成果・課題	<成果> ○読書週間などの啓蒙活動やイベントを行ったが、感染症による休校期間が長く、夏期休暇も短かったため、貸し出し数は昨年より減少した。しかし、希望図書のアンケートによって、生徒が読みたい本、読むべき本を購入することができた。 ○他校の例も参考にしながら、木質化の計画が立案できた。 ○全学年で情報モラルLHRを行い、職員にも配信授業についての著作権遵守について啓蒙活動ができた。 <課題> ▲軽い読み物や漫画の貸し出しが多い。生徒の嗜好を考えながら蔵書作り。 ▲情報リテラシー教育について、生徒指導・教育相談・学年団との連携がまだまだ不足している。 ▲情報機器の使用が職員に徹底されていないので研修を重ねる必要がある。		総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案 (1) 木質化に向けて、蔵書の抜本的整理をおこない、図書委員のさらなる自主的活動を進めて、「生徒自身が作る図書館」を目指す。 (2) 校内情報リテラシー教育体制を現状に即して、各教科や校内活動を通して、強固な形で確立する。 (3) 本年度感染症の関係で中止になった、芸術鑑賞の今後のあり方について考える。			

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナにより貸し出し冊数は減ってしまったと思うが、自宅にとどまる時間が多くなったため、推奨図書を発信したり読んだ本の調査を行ったりして、読書をすることを勧めて欲しいと思う。
- ・芸術鑑賞など開催方法の工夫は必要となるが、ぜひ本物のすばらしさを発信していただきたい。

2	評価する領域・分野	渉外 ◇「組織運営」「保護者、地域連携」		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・事業がほとんど行えず、アンケートなども行えなかった。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇各種のPTA行事の内容等を検討し、参加者が増加するよう改善をはかる。 ◇.創立50周年に向け、同窓会と連携し取り組みを加速させる。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA役員会、同窓会役員会および50周年記念事業実行委員会の充実		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 文書、ホームページ、メールでの事業の通知 (2) PTAだより等での事業の報告			(1) 各事業への参加者の人数 (2) 参加者からのアンケート結果	
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
・少なく制限された状況であったが、50周年事業を進めた。 ・事業がほとんど行えなかった。			①役員会等の開催と特に50周年に向けての取り組み	A ⑧ C D
			②PTA、同窓会事業	A B ⑨ D
11 成果・課題	○昨年度までの活動が認められ、文部科学省及び岐阜県教育委員会から、優良PTA活動として感謝状をいただいた。 ○役員会や実行委員会の方々が大変協力的で、事業の円滑な進行ができている。 ▲ほとんどのPTAおよび同窓会事業が開催できなかったこと			総 合 評 価 A ⑧ C D
12	来年度に向けての改善方策案 ・50周年記念事業についてはさらに取り組みを加速させる。 ・今後、事業の精選や改善を考えていく。 ・ネットを活用しての総会や事業などに取り組んでいく。			

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月8日～19日

【意見・要望・評価等】

- ・コロナにより仕方がないが、直接的なつながりから間接的なつながり（ICTなどの活用）を模索していくしかないのかと思った。

2 評価する領域・分野		◇ 教育相談		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「悩みや相談に親切に対応してくれる」では、生徒の75%弱が肯定的で、15%がわからないと回答している。 ・「教育相談係は個々の生徒に適切な指導を行っている」では、保護者の50%が肯定的で、40%がわからないと回答している。 ・「保護者の悩みや相談に適切に対応している」では、保護者の60%弱が肯定的で、30%がわからないと回答している。 ・個人情報の問題があり、該当者以外は知る機会はないと考えられる。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 問題を抱えた生徒に対する早期対応を目指し、生命を尊重し豊かな人間性と望ましい人間関係の確立を促すための、連携を密にした相談活動を展開する。 (2) 各種検査、「日常生活に関するアンケート」を実施し、自立や自己実現の援助ができる活用を促す。 (3) 特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズに応じて研修会を開き、組織的に対応する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・保健室、学年会と有機的な連携をとり、情報交換会において名前の挙がる生徒について、管理職、部長を交え組織的に方策を練り、担任を支援する体制。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 学校生活への適応のため特に1年生に対しては、中学校との情報交換も交え観察しながら援助を進めていく。校内、家庭、外部機関との連携を密にする。 (2) 各種検査、アンケートを実施し、生徒の自己理解を促すと共に職員の生徒理解に役立てる。 (3) 特別支援教育の企画運営を行い、研修会を開催し、適切な支援のあり方を実践する。		(1) 常に最新の情報を共有し、連携を取り、生徒を援助しているか。 (2) 各種検査やアンケート結果をもとに、生徒理解がなされ喫緊の問題に対応できているか。 (3) 研修会が実りあるものとなり、特別支援が必要な生徒に、適切に支援できたか。		
8 取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価	
・1年生の初期指導としての構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開き ・年9回のスクールカウンセラーの活用事業の計画と、援助を必要とする生徒及び保護者の支援 ・教育相談便り（相談室紹介、SC日程、教育実習生のお悩み克服談等）による情操の涵養 ・学年会、情報交換会等における問題を抱える生徒の情報収集と迅速な対応 ・「クレペリン検査」「i-check」「日常生活に関するアンケート」の実施による生徒理解や問題の把握 ・本校SCによる「面談時の話の聞き方」研修会		(1) 問題を抱えた生徒に対して適切な支援ができたか。 (2) 担任や、学年会と連絡が密にできたか。 (3) 各種検査やアンケート分析結果が生徒理解に資するものとなったか。 (4) 特別支援教育が必要な生徒の情報収集及び支援ができたか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	▲1年生の初期指導として、構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開きを行う予定が、コロナ禍のため実施できず残念であった。 ○校内及び家庭との連携を図り、状況を分析しつつ機会や役割を考え組織的な援助を実践することができた。また、保護者からの相談に対して担任と共に面談をし、継続的な相談に応じた。 ○「日常生活に関するアンケート」を年4回実施し、担任とともに生徒の問題を迅速に把握し対応できた。県からの指示による「心のアンケート」も11回実施し、コロナ禍における生徒の困り感を拾うことができた。また、「クレペリン検査」においては、専門家によるデータ分析結果説明会を開催した ○生徒の抱える問題について随時ケース会議、教科担任会議で共通理解を図り支援に繋げた。 ○ほぼ毎日スクール相談員が常駐するようになったことで、生徒や保護者を受け入れる体制ができ、じっくりと話を聞き支援することができた。 ▲「教育相談便り」の発行回数は増えたが、情操の涵養という面では不十分であった。 ○SCによる職員研修会では、面談時における各教員自身の話し方の特徴を理解し、面談に生かす方法について研修した。		総 合 評 価 A (B) C D	

12 来年度に向けての改善方策案

- ・相談室登校、不登校問題に対処するため外部機関との連携を強め、ネットワーク作りも意図して進める。
- ・個人差が多く多様な生徒のニーズに応えられるように、引き続き教員の資質向上及び共通理解を図る。
- ・迅速な対応、専門機関への受診など、専門家のＳＣによるカウンセリング相談の日数が増えるとよい。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和３年２月８日～１９日

【意見・要望・評価等】

- ・先生以外にもつながりを多く持てる現代社会なので、１日も早く相談の扉を叩ける「仕組みづくり」が必要だと考える。
- ・１年生の初期段階でコロナによる休校があったため、その後生徒がなじめたのかが気になる。適切な時期に適切な相談が受けられるよう令和３年度の新入生には早い段階で相談先を知らせてあげて欲しい。
- ・グループエンカウターの計画がされていたこと、定期的な心のアンケートの実施、スクールカウンセラーによる研修が実施されたことが良い。